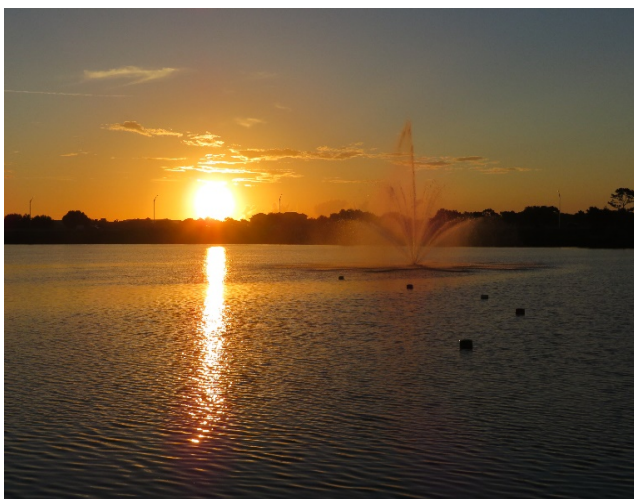


2019WORLD ROWING UNDER23 CHAMPIONSHIPS REPORT 7 (7/24)

いよいよ大会初日。4種目の予選(Heat)がありました。
この日レースのないクルーは、レースがはじまる15分前までのトレーニングタイムで感触を確かめておりました。

日本代表チームの先陣を切るのは、西田選手(明治大学)、高野選手(立命館大学)のBW2-クルーで、オープン女子スウィープにかかる期待を一身に受け大舞台に挑みます。



日本代表チームがNathan Benderson Park についたころはまだ日の出の時間帯でした。

トレーニングクルー



BM2xクルー 手前からS遠山選手(日本体育大学)、
B木村選手(日本大学)



BLW2xクルー 左からS高島選手(明治大学)、B角
谷選手(立教大学)

BW2-予選

海寄りの風が順風にかわりかける中、定刻通りスタート。スタートからアメリカが飛び出しロシア、ドイツが続く展開で、日本はセミファイナルA/B通過ラインの3位ドイツと2.15秒差の4位で500mを通過。第2クォーターに入っても日本はSR35で攻め続け徐々にドイツのとの差を詰めはじめ。1000mでは1位アメリカ、2位ロシアは完全に抜け出し日本とドイツが並ぶよう通過。5位メキシコは少し離れ始めレースの焦点は日本とドイツの3位争いになってきた。

第3クォーターに入り、日本が攻めの姿勢を貫き通し徐々にドイツを突き放し始めた。第3クォーター後半になるとみるみる差が開き始め1500mの通過では3位日本と4位ドイツの差は3.9秒に開く。ラストクォーター、日本は更にドイツを突き放し3位のままゴール。大国ドイツを抑えセミファイナルA/B進出を決め、先陣の役割を十分に果たし日本チームに勢いをつける重要な役割を果たした。



今次クルーコーチに見送られ出艇するBW2-クルー

写真右から西田選手(明治大学)、B高野選手(立命館大学)、今次クルーコーチ



追いつがるドイツを振り切りセミファイナルA/B進出ラインの3位を死守するBW2-クルー。写真手前から、1位アメリカ、3位日本、4位ドイツ、5位メキシコ

BLW1x 予選

日本代表チームの2番手はBLW1x四方選手(鹿屋体育大学)。スタートから頭を押さえられ、500mの通過はトップと4.84秒差の5位と苦しい展開。1000mも大きく遅れたまま5位で通過。ここから徐々に3位フィリピン、4位デンマークとの差を詰めはじめ、1500mは4位に落ちたフィリピンと並ぶようにして通過。ここから一気に追いつき3位デンマークとの差を詰め始めるが、距離が足りずにわずかに届かず4位で明日の敗者復活に回るようになった。



吉田コーチと共に出艇桟橋に向かう四方選手(鹿屋体育大学)



3位デンマークとの差を一気に詰めるBLW1x四方選手(鹿屋体育大学)

BLM1x 予選

スタートから攻めるが横一線。徐々にキプロスとパナマが出始める。日本はチュニジアと並ぶようにして3位で500mを通過。ここから少しずつチュニジアをリードしはじめ先行していたパナマを捉え2位に浮上し1000mを通過。第3クォーター、このままの勢いで1位キプロスに迫りたいところだったが、キプロスは既に独走態勢を気づき上げていた。何とか差を詰めたところだが逆に広げられ1500mを1位キプロスと7.59秒差の2位で通過。ラストクォーターに入ると、3位につけていたチュニジアが猛攻を仕掛けてくる。何とか我慢しきりたいところだったが、チュニジアにかわされ3位後退しそのままゴール。明日の敗者復活に回るようになった。



2位チュニジアとゴール前デッドヒートを繰り広げるBLM1x新井選手(慶應義塾大学)

BM1x 予選

スタートからクォーターファイナル通過ラインの4位をキープ。1位ロシアと8.05秒、3位アメリカと2.75秒差で500mを通過。第2クォーターに入ると1位にギリシャが躍り出てそのまま独走態勢を築く。日本は前を行く3位アメリカをしっかりマークし1000m、1500mを通過。

ラストクォーターに入りほぼ上位4クルーが決まりかけた中でも、日本はしっかりラストスパートを入れ、ラストクォーターのラップタイムは1位でゴール。4位で明後日のクォーターファイナルに駒を進めた。



3位アメリカに必死に食らいつくBM1x櫻間選手(NTT東日本)

BM2x、BLW2x、BLW1x、BLM1xがレースがあります。

ひきつづきご声援よろしくお願ひ致します。